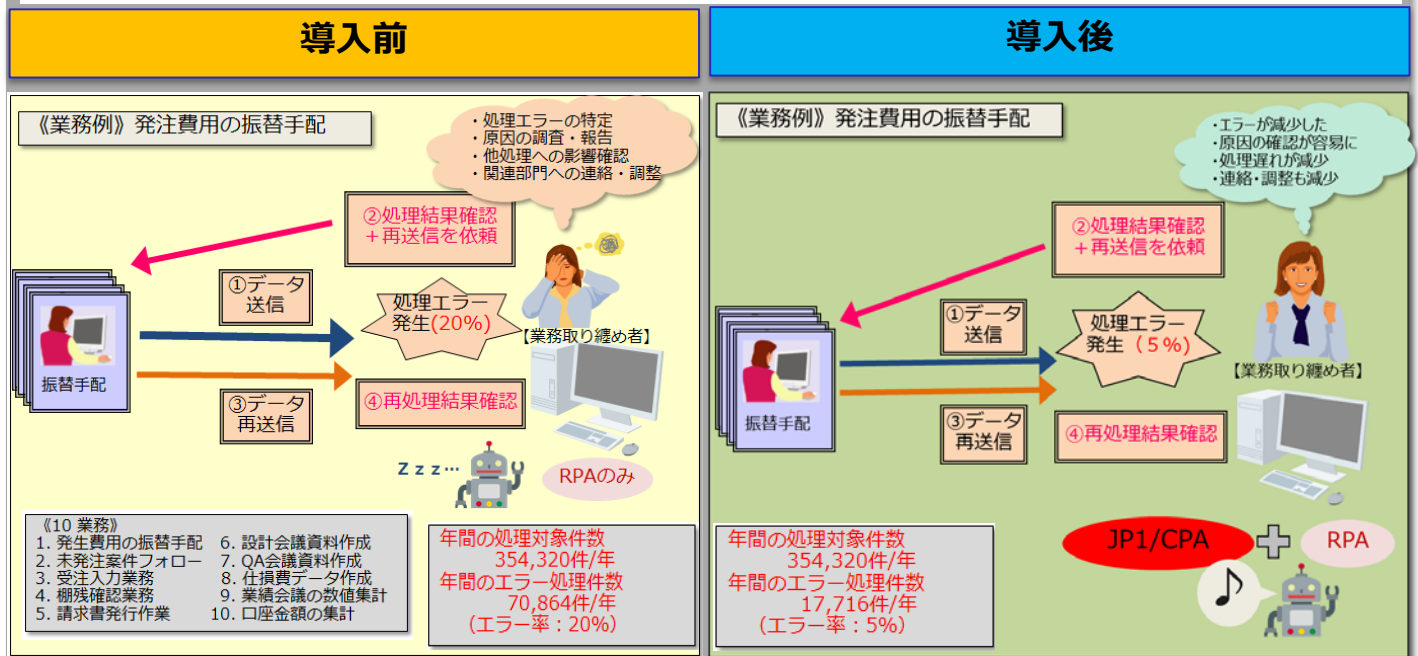


JP1/ Client Process Automation(以下、JP1/CPA)の導入の結果、
Robotic Process Automation(以下、RPA)で自動化した業務をより効率的に運用
⇒「処理エラー時リカバリ作業工数」と「使用機器の消費電力」の削減により
CO₂排出量 42%削減

■お客さまの課題

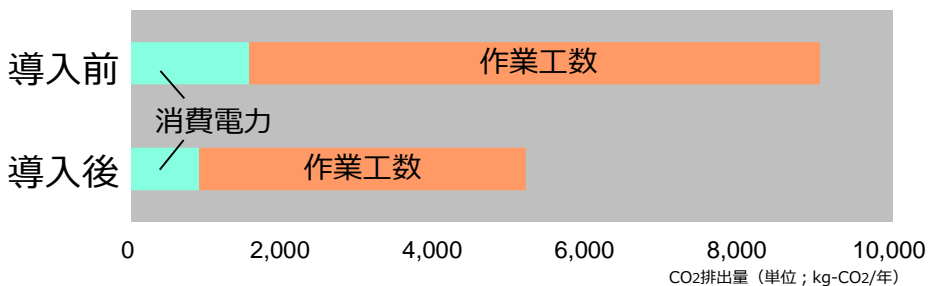
- ・業務を実行する際、前提条件を満たしていないため失敗することがある。
- ・エラーが発生したり、実行結果が不正になった場合、確認や調査に時間がかかる。

■機能単位：社内10部門で行う年間354,320件の業務における、データ入力作業や自動化
処理によるエラー時リカバリ作業



■効果

- ・JP1/CPAによるRPA実行前の制御により、失敗要因を低減できる。
- ・実行状態の管理ができるので、エラーの特定や再処理が容易にできる。



CO₂削減率：42% (CO₂排出量：3,864kg-CO₂/年削減)

- 環境負荷低減要因
 - ・作業工数の削減 (42%)
 - ・消費電力の削減 (42%)
 - 環境負荷増加要因
 - ・使用ステージの増加要因なし
- ・本評価の適用製品は、JP1/Client Process Automation V12.1以降となります。
 ・記載の仕様は、製品の改良などのため予告なく変更することがあります。
 ・環境負荷要因は評価条件や評価モデルにより値が異なります。
 ・本評価は、(株)日立製作所のCO₂算定手法であるSI-LCA(*1)を使用し、2020年2月時点の情報で使用ステージを評価対象として算定しています。
 (*1) SI-LCA：System Integration-Life Cycle Assessment
 SI-LCAは「平成17年度情報通信技術(ICT)の環境効率評価ガイドライン (日本環境効率フォーラム平成18年3月発行) に準拠した手法です。

◎ 株式会社 日立製作所 ITプロダクツ統括本部

情報サイト >> <https://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/soft1/jp1/product/jp1/list/cpa/index.html>

お問い合わせ >> <https://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/soft1/jp1/inquiry/index.html>